

各工程の製品数を把握、共有し、自分たちで計画を立てて取り組む活動

(作業学習)

キーワード：生徒主体の作業学習

クラウドの活用

協働的な学び（各工程の協力）

1 児童生徒の思い・教員の思い



販売会でお客様に陶芸班の作業製品をたくさん販売して喜んでもらいたいです！
販売会までに必要な数の作業製品を作りたいので、製品作りがどこまで進んでいるかをみんなで確認して、作業計画を立てて取り組みたい！

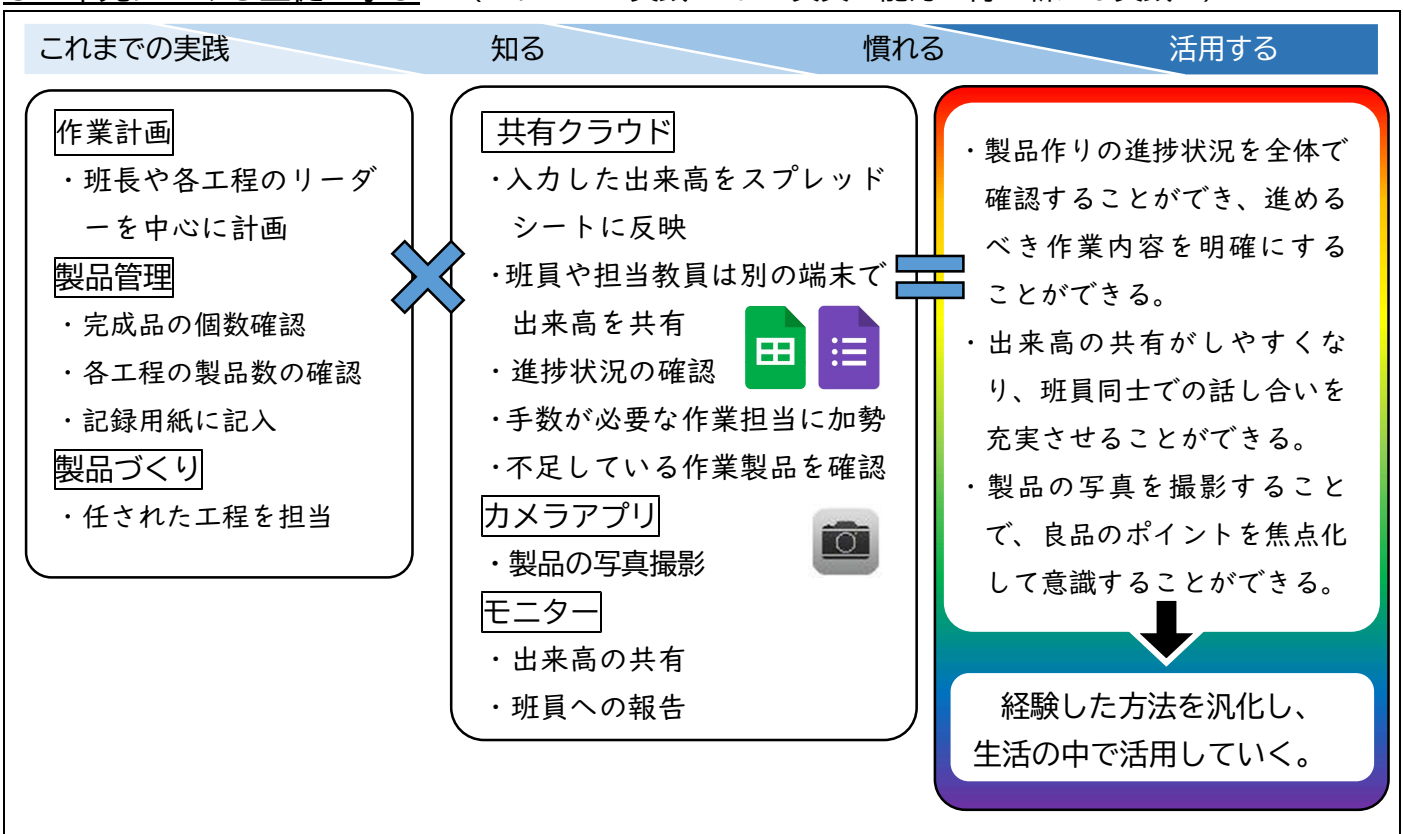


生徒達は、販売会の成功に向けて、製品作りに取り組んでいます。自分が担当する作業工程だけでなく、作業班全体の進捗状況を生徒達自身で把握して共有し、生徒達同士で声を掛け合いながら、目標に向けて協働的に製品作りに取り組んでほしいです。

2 単元目標

- ・販売会までに、多くの製品を作る必要があることや、自分の目標、班の目標が分かる。(知識及び技能)
- ・目標に向かって作業ができていているか確かめたり、見通しをもったりしながら作業をすることができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- ・販売会でたくさんの製品を届けたいという思いをもって製品作りをしようとしている。(学びに向かう力 人間性等)

3 単元における生徒の学び (これまでの実践×ICT=資質・能力を育む新たな実践∞)



4 授業の様子

陶芸班

①作業日誌記入

- ・今日の目標
- ・作業出来高確認

②朝礼

③作業開始

- ・作業製品製作

【たたら班】

- ・粘土づくり
- ・粘土切り
- ・たたら成形
- ・やすり掛け

【流し込み班】

- ・流し込み
- ・やすり掛け

【釉薬班】

- ・乾燥製品のやすり掛け
- ・本焼き製品のやすり掛け
- ・窯入れ
- ・釉薬掛け

- ・良品確認

④片付け・清掃

⑤日誌記入

- ・振り返り、反省

⑥終礼

- ・各グループからの報告

【作業日誌記入】



完成品や各工程の数を確認して、作業日誌に今日の目標を記入しておきましょう。

製品作りはどこまで進んでいるかな…
共有クラウドで確認してみよう。

たたら班は、粘土作りが順調だね。
流し込み班のやすりがけの仕事が大変そうだよ。

流し込み班のリーダーとして、今日はやすりがけを集中して進めよう！



共有クラウドの出来高表を確認することで、各グループのリーダーは作業班全体の進み具合を確認し、この時間に重点的に進める作業内容を検討することができます。

【作業中の調整】



角皿4枚、長皿6枚のやすりがけが終わったから
フォームに入力するね。

釉薬班の仕事がなくなりそうだね。
班全体の進み具合を確認してみよう。

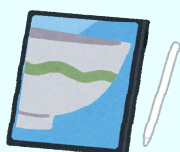
流し込み班のやすりがけの仕事がまだたくさんあるね。

釉薬班には、やすりがけの仕事を手伝ってもらうように伝えよう。



作業棚の製品や共有クラウドの出来高表を見ることで、班全体の作業の進捗状況が確認できます。対応をどうするか、教師や友達に相談する機会を作ることができます。

【良品の管理】



釉薬がはがれているところがあるね。はがれているところに気付いてほしいから、タブレットで写真を撮って見てもらおう。

なるほど！写真を拡大できるから、はがれているところが分かりやすいよ。



実物だと不備の箇所を焦点化して見るのが難しい場合にも、拡大することで改善点に気づきやすくすることができます。友達と話し合う機会が生じることで、対話をととした協働的な学習場面を設定することができます。

【終礼】

端末の出来高表を、モニターに映してみんなで見よう。

たたらも少なくなってきたから、がんばって作らなきゃ！

やすりがけを手伝ってくれたから、だいふ作業が進んだね。

次回の釉薬班の作業が増えてきたね。次の時間はがんばるぞ！



表の数字を見ることで、作業班全体の進捗状況をみんなで確認することができます。他のグループの進捗状況と見比べることで、次への意欲を高めることにつながります。

各工程が Google フォームで入力した製品数を、共有クラウド上のスプレッドシートの出来高表で確認することで、生徒達は自分の作業分担だけでなく、他グループの様子を気にする姿が見られ、生徒達自身で作業を進めていく雰囲気作りにつながりました。また、生徒達が自発的に対話をすることも増えました。どのように進めたら良いかを教師に対して質問することも多くなり、作業におけるコミュニケーションの指導の機会を設定することにもつながりました。



1人1台端末の「知る」「慣れる」「活用する」を支える授業参考事例 ワークシート

1 この事例の児童・生徒の「夢」や「願い」は何でしょうか。



2 児童・生徒の「夢」や「願い」を実現するために、端末のどのような強みを生かしているでしょうか。

子どもたちの世界を広げる～ICTの強み～		
容易な 試行錯誤	小さな動きで 操作可能	直感的な 操作
多様で大量の 情報	過程の可視化	様々な場所で 利用可能
空間的制約を 超えた 双方向の情報共有	アクセシビリティ 機能の充実	オーダーメイド 支援の実現
ポイント ICTの強みを知る		

動画資料「端末活用のポイント」から

3 この事例を参考に、目の前の児童・生徒の「夢」や「願い」を実現するために、どのような実践をしたいと思いますか。



校内研修や学部・学年研修等で、御活用ください。